column

マイエコー，買っちゃいました

六反田諒
亀田総合病院リウマチ・膠原病・アレルギー内科

私は 2018 年 8 月にコニカミノルタの SNiBLE-yb を購入しました．内科医で個人購入するような酔狂な人は他にほとんどいないかもしれません．

リウマチ科では「関節エコー」として滑膜炎のエコーを行いますが，多くの場合は「検査」という位置付けで，例えば腹部超音波検査をオーダーするように検査枠を予約して検査室で行われることが多く，自分も無意識にそのようなやり方が当たり前だと思ってしまっていました．このように検査として行うエコーの場合，網羅的な観察ができ，綺麗な画像をとることもできますが，その一方で，リアルタイムで患者さんの症状を治療したり，自由にエコーを使ったりできないことに悩んでいました．

自分でいろいろと試行錯誤した末に，バルセロナの Ingrid Möller 先生・ David Bong 先生の元で学ばせて頂き，エコーを検査室ではなく診察の一環として使い，みる対象も関節だけではなく神経・血管・肺・腺組織，ときには耳や目まで(！)，全身に応用できることを知り，「本当に自分がやりたかったことはこれだ！」と直感したのです．

帰国後も「リアルタイム」で「何でもみる」エコーを目指してやっていましたが，普通の人の何倍も経験が必要となってしまうため，どうしても共用のエコーでは限界を感じて個人購入に至ったわけです．購入後はエコーを使う閾値が大幅に低くなり，思う存分，試行錯誤することができて，一生ものの買い物だったと思っています．

いろいろなことを勉強する大変さはありますが，その過程で笹原潤先生・宮武和馬先生・皆川洋至先生をはじめ素晴らしい先生たちと出会うことができました．また，全身の解剖に通じることで今までの自分や，普通の内科医ではまず診断できないものを診断し，内科医には難しいと思われがちな注射手技もできるようになり，自分の診療の大きな自信にもつながりました．

余談ですが，バルセロナの先生方に再会したときに hydrorelease を教えたところ，その後も hydrorelease を続けてくださっていたようで，2019 年 5 月に来日された際に David Bong 先生が内科医の前で hydrorelease について熱く語る一場面があり印象的でした．内科医ではまだまだ一般的ではない hydrorelease ですが，欧州から逆輸入される，なんてこともあるかも知れませんね．

筆者(中央)と Ingrid Möller 先生(右) David Bong 先生(左)　2019 年 2 月バルセロナにて

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2020

2026/10/15 05:02:49